

中部の環境を考える会『環境と創造』

写真は『環境と創造』38号、2020年である。特集は「伊勢湾のプラスチック汚染—マイクロプラスチックの脅威」「野呂汎先生を悼む」である。野呂汎先生は中部の環境を考える会(中環)を支えてきた弁護士であり、私も長い間お世話になった。「野呂先生、ありがとうございます」と、追悼の言葉を書かせてもらった。

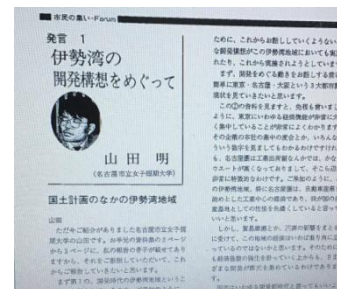


中環との出会いは、いつであったか記憶がはっきりしない。名古屋市立女子短大に就職したのが1979年であり、それから数年後に調査、シンポジウムなどに参加してきた。しばらくして野呂先生から中環の「世話人」のお誘いもあったと思う。



『環境と創造』という会報が1983年に発行された。写真のCD版を手に入れて、総目次をたどってみると、昔の記憶がよみがえる。私が『環境と創造』に掲載された記録を順にたどってみよう。

私の初登場は、1988年の第6号。創立5周年特集「伊勢湾・名古屋港の環境を考える市民の集い」である。作家の椎名誠さんが「海について考えること」と記念講演した。講演を聴いて椎名さんに興味をもち、何冊か本を読んだ。そのあとのフォーラムで、「伊勢湾の開発構想をめぐって」のテーマで報告し討論に参加した。確か、船橋漁協の大野一敏さんが「海から陸」と話されたのを受けて、「陸から海」伊勢湾の開発を見ていきたいと話したと思う。



次からは掲載されたタイトルと号(年)だけ記録する。

「愛知万博への5つの疑問」12号、1993年、「伊勢湾口道路を考えるつどい」15号、1996年、「中部新空港計画の現状と問題点」15号、1997年、「日本環境会議名古屋大会」「環境アセスメントの問題点を衝く」18号、1999年、「中部新空港の建設をめぐって」20号、2001年、「愛知万博の検証」「万博を振り返って」24号、2005年、「西條八東先生をしのぶ」26号、2007年、「名古屋の環境・観光まちづくり」28号、2009年、「書評『公害・環境問題から見た生物多様性—中部地方の事例から』」29号、2010年、「東日本大震災から学ぶ」「キャンパス例会」30号、2011年、「田中紀子さんを偲んで」「大震災と防災・減災まちづくり」31号、2012年、「環境と開発とまちづくり」33号、2015年。

(2020年12月18日)